

企業と生物多様性セミナー

第9回 生物多様性とコミュニケーション

生物多様性の危機的状況、社会情勢により、多くの企業が、事業活動の中で、社会貢献として、生物多様性への取組を開始しています。取組を行う上で、その取組の意義をいかに社内外に伝えていくかが重要になってきます。今回はコミュニケーションのプロにその極意を教えてください。取組をこれから開始する企業にとっても、取組方法を考える上で役に立つかと思しますので、ご参加お待ちしております。

日時

2012年 **2月9日** (木)
14時～16時

場所

千葉県庁中庁舎10階大会議室

対象

県内に工場・事業所がある企業 100名
(参加無料) ※企業向けですが、一般参加者も受け付けます

申込・問い合わせ先

事前申込制：千葉県自然保護課（担当：音谷）
宛に下記申込内容を記載の上、メールまたはFAXで**2月6日**までに申込下さい。

Email hogo10@mz.pref.chiba.lg.jp

Tel 043(223)2957

Fax 043(225)1630

セミナー内容

◆講演：**生物多様性はコミュニケーションの世界**
博報堂DYメディアパートナーズ環境コミュニケーション部長
川廷昌弘氏

※詳しくは裏をご覧ください。

◇報告：県から生物多様性に関する情報提供を行います。

◆事例紹介：生物多様性の取組を行っている企業の事例を紹介していただきます。

●利根コカ・コーラボトリング株式会社

※他の事例紹介は調整中のため決まり次第、県生物多様性センターHP
(<http://www.bdcchiba.jp/cooperation/kigyou/kigyou.html>)にて発表します。

主催：千葉県自然保護課・

社団法人千葉県経済協議会・社団法人千葉県環境保全協議会

第9回 企業と生物多様性セミナー申込書（2月9日開催）

会社名		業種	
連絡先	Tel	E-mail	
参加者の 所属・職・ 氏名	<hr/> <hr/>		

川 廷 昌 弘 (かわていまさひろ) 氏

博報堂DYメディアパートナーズ環境コミュニケーション部長。

チーム・マイナス6%立ち上げから関わり環境コミュニケーション領域に専従。一般社団法人CEPAジャパン代表、国連生物多様性の10年日本委員会委員、日本写真家協会会員。COP10のCEPA(広報、教育、普及啓発)決議で発言し成果を挙げ国際自然保護連合教育コミュニケーション委員会のメンバーに。

※環境コミュニケーション：企業、従業員、顧客・消費者、株主・投資家、地域社会、行政、取引先、市民団体、メディアなど、様々な関係者との間で、環境負荷や環境保全活動等に関する情報を一方的に提供するだけでなく、意見を聞き、討議することにより、相互理解や信頼関係が生まれ、問題の未然防止や、解決の糸口を見出すことに繋げていく。

●なぜ生物多様性！？

生物多様性は生物が遺伝子・種・生態系のレベルで多様であること、すなわち、人類も含めた様々な生きものがお互いにつながり合って共存していることを指している。われわれ人類は、水、酸素、食料、繊維、木材、燃料、医薬品、安定した気候、自然災害緩和、心を癒す景観、自然のしぐみに着想した新技術など、自然の恵み(生態系サービス)を享受して生活しており、社会経済活動のほとんどを、生物多様性に依存しているといっても過言ではない。しかし、人間活動の拡大により、地球上の生きものは急速に減少しており、メダカやカエルなど身近な生きものまでもが、絶滅を危惧されている。今や年間4万種ともいわれる種の絶滅のスピードはとどまるところを知らず、生物多様性の保全は、人類の緊急課題となっている。

●なぜ企業が生物多様性に取り組む必要があるのか？

農林水産物や鉱物資源、遺伝資源など原材料調達をはじめとして、企業活動は生物多様性に支えられている。と同時に、企業活動は、資源調達や開発、エネルギー利用などにより、生物多様性に多大な負の影響を与えている。持続可能な企業活動のためには、企業による生物多様性への配慮が必須で、多くの企業が自社の経営方針やCSR活動に生物多様性の視点を盛り込み、サプライチェーンの見直しなど、具体的な行動に着手し始めている。

<会場の場所> 千葉県庁 中庁舎 10階 大会議室



- JR内房線・外房線
本千葉駅下車 徒歩8分
- 京成電鉄
千葉中央駅下車 徒歩10分
- 千葉都市モノレール
県庁前駅下車 徒歩3分
- バス停 「県庁前」下車 徒歩3分

ここ